

かん きん まなこ
看經の眼

柳 幹康



今回は白隠が重視する看經の眼について見て参ります。

看經の眼とは文字通り、經典を正しく看て取る眼の意です。經典は仏教を開いた釈尊の言葉とされますので、經典を正しく看て取ること、その話し手である釈尊の真意を読み取ることにあります。したがって看經の眼を開くには、釈尊と同じ視座に立つこと——釈尊と同じ悟りを得ること——が欠かせません。この点について白隠は次のように述べています。「そなたが仏祖の心地（心という基盤）を悟ったのであれば、どうして仏祖の言葉を正しく見る眼が開いていないというようなことがあるだろうか」（『荊叢毒藥拾遺』）、「仏祖の言葉を理解できないのであれば、それは仏祖の心がまだ分かっていないということなのだ」（『遠羅天釜』巻上）。

また白隠は修行者に対し、看經の眼の重要性

について次のように述べています。

諸君、刻苦精練して、必ずや看經の眼を開かなければならない。もしこの眼が無いのであれば、たとえ（かの有名な中国の大慧だいゑ禪師のように）十八回の大悟や無数の小悟を開こうとも、調べてみれば、役に立たない妄想、死んだ知識に過ぎない。

（『八重律』やえむら卷三）

つまり看經の眼を開かない限り——釈尊に等しい悟りを得ない限り——いかなる悟りも真の意味で役に立つ生きたものとはならないのだというのです。

このような看經の眼は白隠にとって自利（自分を利する）面でも利他（他者を利する）面でも重要なものでした。白隠は次のように述べて

います。

普く一切衆生を救済しようという大悲の願心を起こすことが肝要である。各種各様の無数の教えに精通するために、まずは仏祖の言葉に日夜参究せよ。五家七宗（という禅宗諸派）の奥深い道理、五時八教（に分類される仏の教え）の素晴らしい内容をひとつひとつみな明らめ、さらに余力があるのであれば諸子百家など仏教以外の奥深い考えをも明らめよ。とはいえ闇雲やみくもにあれこれ手を出すならば、徒らに労力がかかるだけで無益である。（要となる）仏祖の透り難き公案（禅の課題）に参究してその勘所を得ることができれば、円満な智慧が輝き溢れ、あらゆる教えがみな自ずと明らかになるだろう。これを看經の眼というので

ある。

『四智辨』

たとえ説法の力が（釈尊の高弟で説法第一と称される）富楼那に匹敵し、智慧の力が（智慧第一と称される）舍利弗を凌駕するとしても、悟りを得るための資糧に乏しく、本性を見てとる正しい眼が無いのであれば、自惚れや邪な理解を抱くことで仏としての本性を瞬時に台無しにしてしまい、永遠に地獄で苦しむこととなる。真の修行者はこうであってはいけない。まず自分の掌を見るようにはつきりと本性を見て取ったうえで、時々には仏祖の教えを見て、己が心によりそれを照らすのだ。そして真の導師に参じて祖師の最後の関門を突破し、（教えを説いて他者を導き）最後には一人でも半人でも（後継者を）養成すること、

仏祖の深恩に報いるのである。

『息耕録開筵普説』

白隠がこのように述べる背景には、前回見た上求菩提（上に己の菩提を求める）と下化衆生（下に衆生を教化する）をともに行なう白隠の実践観があります。自利と利他を併せ修める白隠にとって看經の眼の獲得とは、自身の悟りを用いて他者を導くための前提となるものだったのです。

柳 幹康（やなぎ みきやす）

一九八二年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。東京大学東洋文化研究所准教授・花園大学国際禅学研究所客員研究員（副所長）。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』（法蔵館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ㄱ切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・ご感想など

本誌へのご意見・ご感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。

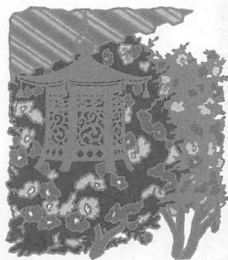


「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花 園】第71巻 第12号(通巻第844号)
令和3年12月1日発行(毎月1日発行)
定価55円
【発行人】野口善敬
【編集人】石田信行
【印刷人】喜田眞司
【発行所】京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400
電話／075-463-3121

表紙の絵

「山茶花」



寒空に庭を彩る赤い花。

絵・正親 里紗(おおぎりさ)

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。